

授業概要

高等学校国語科が求めている各領域の指導事項を基礎的・基本的な内容として生徒が確実に習得していくための教育法を確立するとともに具体的な方法を講じて授業展開をしていく。

特に、新学習指導要領として「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」や「言語文化」等を中学校との系統性を理解して、言語活動例を生かしていく手立てを講じる必要がある。

授業では、高等学校段階として求められている国語科の能力において具体的教材を通して授業改善につなげていく方策を探るようにする。

授業計画

第1回	高等学校で身につけるべきこと(1) ・論理的分析力、批評力を指導する
第2回	高等学校で身につけるべきこと(2) ・常用漢字のだいたいが書ける ・読書活動に生かす
第3回	「話すこと・聞くこと」の系統性の具現化(1) ・PR 紙づくり ・自分の好きな一冊の本の紹介文
第4回	「話すこと・聞くこと」の系統性の具現化(2) ・教材「らしさ」を考える ・ディベートを試す
第5回	「読むこと」の系統性の具現化(1) ・キーワードに基づいて読み解く方法を指導する
第6回	「読むこと」の系統性の具現化(2) ・評論を読み解くポイントを指導する
第7回	「読むこと」の系統性の具現化(3) ・批評文を交流するポイントを指導する
第8回	「書くこと」の系統性の具現化(1) ・データを読み、言葉に変換 ・図から読み取って表現
第9回	「書くこと」の系統性の具現化(2) ・好きな映画の紹介他 ・論理的な文章表現を目指して
第10回	伝統的な言語文化に親しむ(1) ・古典入門教材の指導法を考える ICT の活用
第11回	伝統的な言語文化に親しむ(2) ・漢文入門 ・4字熟語の訓読を考えて指導する
第12回	指導案の書き方 ・指導案の実際と書き方 ・生徒の実態の書き方と教材分析の方法を指導する
第13回	高等学校国語科模擬授業実践(1) ・受講生による模擬授業 ・授業評価 ・意見交流を指導する
第14回	高等学校国語科模擬授業実践(2) ・受講生による模擬授業 ・授業評価 ・意見交流を指導する
第15回	国語科教育法Ⅱを振り返る ・授業の見方と評価 ・授業改善の方向性を指導する
第16回	レポート提出 まとめ

到達目標

高等学校の国語科として身につけなければならない能力を具体的な授業設計を通して実践し、模擬授業の学習指導案の作成を確かなものにすることを目標とする。

履修上の注意

高等学校で求められている能力は、各領域ともに「伝える力」であり「生きる力」である。したがって、生徒の力量を高めていくための手立てとして授業力ある教師の存在が不可欠となる。日頃から、国語科の教師となるという意識をもって授業に臨んでほしい。なお、模擬授業を増やし、実践力をつける。

予習復習

- ・予習、復習をして各領域の基礎的・基本的な内容を理解して、教材研究の日常化を図ること
- ・ノート整理をして学びの習慣化を図ること
- ・身近な問題に関心をもって物事に対処できる自分づくりをしておくこと

評価方法

授業内の学習活動(30%)及び、授業内での提出物および模擬授業学習指導案の作成(30%)、授業の達成目標の達成度を課題レポート(40%)で評価する。

テキスト

テキスト：『高等学校学習指導要領解説書国語編』（文部科学省） テキスト、参考文献等については、授業内で指示する他、適宜推奨図書を紹介したり、必要な資料を配布したりする。